

第四百六十五回 青葉会句会選句表

令和七年一月二十三日(木) 初句会

場所…世田谷区三茶しやれなあとど

選者 川口孤舟

投句・選句 今井紀久男 柿崎忠彦 川口孤舟 久米五郎太 熊谷くにお 後藤とみ子 小早健介

在間千恵 佐藤ただしげ 高橋康敏 田島正己 土谷堂哉 豊田ゆたか 西澤國護

福島正明 古川百合子 古田昇 星田啓子 山崎亜也 山田けい子 山内天牛

渡邊盛雄

選句のみ 伊賀山そらお、梅崎くすを 重枝孝岳 庄司龍平 高橋清子 橋口隆 早川允章

山本三恵

【互選句】 ◎は孤舟選者の選 選者欄の○は選者の「天」

十二点

嘶家のするり脱ぎおく冬羽織 とみ子 (紀・忠・く・健・千・清・堂・昇・啓・け・三・天)

九点

◎駒をさす指しなやかや初座敷 くにお (紀・孤・千・康・堂・國・允・啓・盛)

◎この恋の歌だけは取る歌留多会 けい子 (紀・くす・孤・健・千・孝・清・康・亜)

八点

良く噛めと言われる歳の雑煮かな 忠彦 (そ・紀・た・龍・ゆ・堂・正・盛)

主語述語なくとも夫婦鮫鰯鍋 孤舟 (○くす・紀・と・孝・○己・百・け・○盛)

◎玉砂利がリズムを刻む初詣 けい子 (そ・孤・千・た・清・國・正・天)

七点

遠富士の春を寿ぐ白さかな 千恵 (そ・五・龍・己・堂・隆・昇)

六点

◎凍星のまたたきのなか尾灯ゆく 百合子 (くす・孤・龍・康・允・亜)

五点

◎大年の潟さざ波の浮寝かな くにお (孤・允・啓・け・三)

宝船回文知りし母はなく 五郎太 (○紀・と・己・啓・亜)

老いるとも脱皮できるか大旦 全 (くす・と・○孝・百・三)

◎年賀状すつかり束の薄くなり 千恵 (孤・忠・く・健・昇)

◎雪女萬代橋をわたり来る 百合子 (紀・孤・五・亜・三)

四点

裸木となりて矜持の深まりぬ 孤舟 (くす・五・孝・百)

読初やをさなご膝に「ぐりとぐら」 康敏 (清・己・堂・天)

恐る恐る値札確かめ春キャベツ 正明 (忠・た・ゆ・啓)

一人居の母に持たせる節料理 昇 (○そ・紀・く・亜)

初春や富士玲瓏と湖に立つ
天使らの囁きのごと氷霧舞ふ
カンカンと凍むる靴音巴里の路地
江戸からの処方箋かな玉子酒

昇 全 啓子 盛雄

(く・己・堂・〇允)
(五・と・ゆ・け)
(紀・た・昇・け)
(健・清・ゆ・國)

三点

初芝居気合をこめて大向ふ
冬銀河へ昇る硝子のエレベーター
むささびの翔んで闇夜を引き裂きぬ
初釜や穏やかな日々願ひつつ

◎蔵の扉に空襲の跡水仙花

福笹の千両箱の軽きかな
日短や人も無口な帰り道
駄目ですと医者にもなく冬の旅
冬の陽の金継グラスに虹醸す
二日三日箱根駅伝見て過す

紀久男 孤舟 全 五郎太 とみ子 康敏 正己 堂哉 啓子 天牛

(忠・五・天)
(康・百・け)
(と・康・正)
(と・た・昇)
(孤・く・百)
(た・亜・〇三)
(そ・清・國)
(健・ゆ・天)
(そ・く・〇龍)
(忠・隆・正)

二点

志ん朝の Youtube 見て初笑い
ドラマあり冬の駅伝中継点
妣の手なるレシピは今も節料理
丹波路の闇深ければ牡丹鍋
待つうちに心清まる除夜詣
合唱に捧げし友よ寒昂

新調の前掛け亭主女正月

◎雪時雨受けてたたずむ五重の塔
初雪の深みを見るに恐れ増し
脳トレと万歩に励む去年今年
今が旬鰯大根の夕餉かな
壺に挿す梅綻ぶや松の内
バレエ観し昔日憶ふ露都の雪
人の世に祈ぎ事多し初恵比須

忠彦 健介 千恵 康敏 正己 堂哉 全 ゆたか 國護 昇 昇 啓子 亜也 盛雄

(千・昇)
(そ・紀)
(紀・允)
(正・啓)
(紀・百)
(紀・孝)
(健・盛)
(紀・孤)
(紀・五)
(ゆ・盛)
(國・天)
(くす・康)
(紀・國)
(紀・〇千)

一点

やり切ったオール早稲田のラガー善戦す
書初し硯を洗い心も洗う
去年今年玻璃越しに逢ふ新生児
蕪蒸向ひは御所の夕木立
年の瀬や急に旅立つ無情かな
初詣襟を直して願をかけ
新年会ワインに洋風和風消え
三が日和服襟巻き賽銭を

紀久男 忠彦 孤舟 五郎太 国護 全 全

(隆)
(隆)
(己)
(三)
(隆)
(忠)
(〇正)
(盛)

望見する未来や今朝の初氷
金婚の妻とをろがむ初日の出
冬の虹濃き朝焼けに呼ばれしや
牡丹焚く紅樓夢なら黛玉で
◎正月やボール蹴る音よく響く

正明 (龍)
昇 (允)
啓子 (龍)
亜也 (孝)
天牛 (孤)

【句 評・短 評】

十二点句

嘶家のするり脱ぎおく冬羽織

とみ子

堂哉さん・・・所作が目には浮かびます。いよいよこれから本題に

天牛さん・・・「するり」で決まりですね。しかし、冬羽織がどういうものか分かりませんが・

九点句

駒をさす指しなやかや初座敷

くにお

孤舟選者・・・最近の名人は豪快さと無骨さが消えたようだ。

千恵さん・・・確かに盤に駒を置く仕草は個性ありつつもなかなか美しかったですね。

康敏さん・・・しなやかな指で西山女流三冠が浮かんた。今回は残念だったが、再挑戦を期待。

堂哉さん・・・今年も藤井君は快調のようですね

この恋の歌だけは取る歌留多会

けい子

孤舟選者・・・特にこの恋の札だけは命がけで(？)ゲットしよう。

健介さん・・・誰にも是非取りたい「この一枚」はあるようですね、不肖私にも。

千恵さん・・・こういうこだわり好きですね。

康敏さん・・・あまり見なくなった歌留多会。学生の頃は振袖姿が混じり賑やかだった。

参考「恋歌留多ばかり取り取りたる漢かな 佐伯啓子」

亜也さん・・・和泉式部か式子内親王。やはり式子内親王かな？

八点句

良く噛めと言われる歳の雑煮かな

忠彦

ただしげさん・納得。気を付けましょう！

龍平さん・・・ハイハイと 頷く私の 米寿かな

堂哉さん・・・何かと注意されることが増えてきました！

盛雄さん・・・家族から度々のアドヴァイス、身に沁む昨今です。

主語述語なくとも夫婦鮫鰯鍋

孤舟

とみ子さん・・・阿吽の呼吸とでも言うのでしょうか？

正己さん・・・あったかい鍋と夫婦円満何よりです。

百合子さん・・・長年連れ添ったご夫婦の味に乾杯！

盛雄さん・・・「あれ」「それ」で全て通じる熟年夫婦。ユニークな一句。天に頂きました。

玉砂利がリズムを刻む初詣

けい子

孤舟選者・・・延々と続く参詣者の靴音。

千恵さん・・・時にうるさいですけど。。。(笑)

ただしげさん・・・初詣客の玉砂利の音を面白く捉えている中7が良い。

天牛さん・・・明治神宮でしょうか。今年は己の鈴を孫が届けてくれました。九十六歳になりました。

七点句

遠富士の春を寿ぐ白さかな

千恵

五郎太さん・・・初富士をうまくパラフレーズされました。

龍平さん・・・富士山は永劫 日本心

堂哉さん・・・われわれ関西人には誠に羨ましい景色です。幸い、先日七里ガ浜から少し眺めることが出来ました。

隆さん・・・富士の白さは春の兆し。昨年は初冠雪が遅かった。トランプのパリ協定離脱で温暖化が進む。白さが益々貴重。

六点句

凍星のまたたきのなか尾灯ゆく

百合子

孤舟選者・・・渋滞の高速道でテールランプが連なり、凍星たちに溶け込んでゆくようだ。

康敏さん・・・正月休み最後の日、高速道路にぎつしりテールランプが続く。

参考「渋滞の尾灯どこまで年の暮 川崎寿重」

亜也さん・・・夜空に漂う詩情。ひらがなのもいい。

五点句

宝船回文知りし母はなく

五郎太

啓子さん・・・挿絵画家でもあった勘亭流江戸文字の私の師匠がお正月のご挨拶に伺うと、枕の下にと七福神の絵にこの回文をつけた半紙を下さった想い出が甦りました。胸がいっぱいに。

亜也さん・・・なかきよの：懐かしくも思い出させてくれたことに感謝。

老いとも脱皮できるか大旦

五郎太

とみ子さん・・・今年は巳年だけに一層そう思いますね。伸び代は、まだまだあると思います。

孝岳さん・・・歳は取っても、新しい年にむけて精進する気概を宣言するような句。共感します。

百合子さん・・・この気概を私も持ちたい！ 脱帽です。

大年の渦さざ波の浮寝かな

くにお

孤舟選者・・・大晦日の穏やかな静寂のなか、渦の水鳥たちの浮寝。

啓子さん・・・今日の大晦日の渦は穏やかで、さざ波が光る中水鳥たちも眠っているよう。来る年が穏やかな年でありますように・・・そんな想いが感じられます。

年賀状すつかり束の薄くなり

千恵

孤舟選者・・・既に年賀状の使命は終わった感あり。

雪女萬代橋をわたり来る

百合子

孤舟選者・・・今年は例年に比べ雪が多い新潟市。誘われて雪女が彷徨い出たのか。

五郎太さん・・・100年近い歴史を持つ長い橋。雪が降る中 を女性が歩いてくる。一幅の絵です。

亜也さん・・・これは傑作。今年は大雪の新潟、雪女市内にまで登場という次第。

四点句

裸木となりて矜持の深まりぬ

孤舟

五郎太さん・・・木の葉が落ちるように人は年老い、飾りを捨てます。そこに誇りが見られます。

百合子さん・・・まだまだこの境地には至りませんが、至りたいです。

読初やをさなぐ膝に「ぐりぐり」

康敏

天牛さん・・・俳句はリズムが大事な要素ですね。それにピタリ！つい十何年か前まで私も毎日こうしていました。

恐る恐る値札確かめ春キャベツ

正明

ただしげさん・最近のキャベツの異常な程の値上がり面白く表現されている。

一人居の母に持たせる節料理

昇

亜也さん・・・気遣う心ばえがしみじみとして素晴らしい。

初春や富士玲瓏と湖に立つ

昇

堂哉さん・・・下五で戴きました。

允章さん・・・この光景は日本人はもとより外国人にとつても感動的な景色だと思います。

天使らの囁きのごと氷霧舞ふ

昇

五郎太さん・・・シヤラシヤラという音があちこちで聞こえます。天使の囁き、いい表現です。

とみ子さん・・・幻想的な世界が広がりますね。

カンカンと凍むる靴音巴里の路地

啓子

ただしげさん・パリの路地は石畳が多く、カンカンとの靴音は面白い表現。

昇さん・・・底冷えのパリの石畳の路地をカンカンと靴音が鳴り響きます。パリと言えばダンスの

カンカンを想起させ面白い句になりました。

江戸からの処方箋かな玉子酒

盛雄

三点句

初芝居気合をこめて大向ふ

紀久男

五郎太さん・・・新年、清々しい大きな声がいいですね。

天牛さん・・・あの人が気合を込めたら、又パリに呼ばれますよ！

冬銀河へ昇る硝子のエレベーター

孤舟

康敏さん・・・チャリー一家の乗ったガラスのエレベーター、チョコレート工場に行く筈が、操作

を誤って宇宙へ飛び出す。

百合子さん・・・硝子張りのエレベーターが昇っていく様子、ぴったりの表現だと思いました。

むささびの翔んで闇夜を引き裂きぬ

孤舟

とみ子さん・・・むささびの機敏な動きが、鮮やかに表現されています。

康敏さん・・・むささびが滑空しているのを見たことはないが、闇夜を引き裂くで臨場感が。

初釜や穏やかな日々願ひつつ

五郎太

ただしげさん・今年も穏やかな一年を願う気持ち、同じ思いです。

蔵の扉に空襲の跡水仙花

とみ子

孤舟選者・・・蔵の扉に八十年前の大空襲の傷跡。今年も傍らに清楚な水仙が咲いた。

百合子さん・・・空襲と水仙花の取り合わせ、どちらの存在をも際立たせていますね。

福笹の千両箱の軽きかな

康敏

ただしげさん・最近の物価上昇により千両箱も軽くなったとの面白い世相表現。

三恵さん・・・恥ずかしながら「福笹」を初めてしりました。調べたところ笹に縁起物をつけて、ご利益を

授かる神事とか。千両箱は御大層ですが、なんだか素朴な庶民の夢が愛おしくなりました。

亜也さん・・・当たり前でないながら味のある馬鹿馬鹿しさ。

駄目ですと医者にもなく冬の旅

堂哉

天牛さん・・・特に寒い時期の旅は危険ですから、当然でしょう。

冬の陽の金継グラスに虹醸す

啓子

龍平さん・・・金箔に成ったり 多芸な活躍 冬季の太陽も宝もの。何時だって<Oh Sole Mio>はあり

ますけど。

二日三日箱根駅伝見て過す

天牛

隆さん・・・「山の神」に負けた母校。捲土重来。「年明けは箱根駅伝見て暮らす」でも。

二点句

志ん朝の youtube 見て初笑い

忠彦

千恵さん・・・良い初笑いだったのでは。志ん朝さんは好きな落語家。早すぎました。

今が旬鰯大根の夕餉かな

ただしげ

天牛さん・・・濃い目に煮た大根がまた美味しそうです。

丹波路の闇深ければ牡丹鍋

康敏

啓子さん・・・江戸時代から続く老舗があるという、温かく美味しい牡丹鍋、どれほど旅人の心身を癒したことでしょう。中七の、丹波路の闇、なにやら剣呑な雰囲気醸し出して白黒映画を観るようで。

待つうちに心清まる除夜詣

正己

百合子さん・・・鐘を打つ順番が近づくにつれ、いつしか周囲の声が消え、心が澄んでくるこの感じ、何回か経験しました。

新調の前掛け亭主女正月

堂哉

※句会にて・・・一般的に女正月の読みは「おんなしょうがつ」。小正月「こしょうがつ」としたら如何かとの話になりました。

雪時雨受けてたたずむ五重の塔

ゆたか

孤舟選者・・・雪時雨のなか、毅然と立ち尽くす五重塔。

※尚、句にある「五重の塔」の「の」は不要。

初雪の深みを見るに恐れ増し

國護

五郎太さん・・・青森では3メートル超の雪が正月に降りました。自然の力は偉大です。

脳トレと万歩に励む去年今年

昇

盛雄さん・・・心意気爽快です。頑張ってください。

壺に挿す梅綻ぶや松の内

啓子

康敏さん・・・松の内だというのに、暖房の部屋の梅は綻び出した。「松の内」が主季語で季重なりは氣にならない。

人の世に祈ぎ事多し初恵比須

盛雄

千恵さん・・・本当に神様をお願いしたことがあり過ぎです、今の世の中。

一点句

やり切ったオール早稲田のラガー善戦す

紀久男

隆さん・・・親族の女婿に慶大ラグビー部監督がいた。応援したい。

「よくやったオール早大ラグーマン」でも。

書初し硯を洗い心も洗う

忠彦

隆さん・・・「硯を洗う」と「心を洗う」。成程。「書初めの硯を洗ふ心を洗ふ」でも。

年の瀬や急に旅立つ無情かな

ただしげ

隆さん・・・旧臘二人の方から服喪中のお知らせをいただいた。「無情かな師走に届く訃報の知らせ」でも。

※康敏さん・・・「や・かな」の切字の併用は意味が分散するのでタブー。そして、無情は無常では。

「年の瀬に急ぎ旅立つ無常かな」

新年会ワインに洋風和風消え

國護

正明さん・・・僕も晩酌はどんな料理でも ワイン 30ミリリットルです。ワインの質が年毎に上がり、どんな料理にも合うからです。時代でしょうか。

三が日和服襟巻き賽銭を

國護

盛雄さん・・・せめて正月は和服で初詣で、下五が愉しい句に仕上がりました。

※孤舟選者・・・「三が日」と「襟巻」が季重なりですね。

冬の虹濃き朝焼けに呼ばれしや

啓子

※孤舟選者・・・「冬の虹」(冬)と「朝焼け」(夏)の季重なりです。

牡丹焚く紅樓夢なら黛玉で

亜也

※亜也さん(自解をお願いしました)・・・牡丹の枯れ枝を供養のために焚く行事があると知り、ふと連想したのが、紅樓夢。映像でも落花の汚れるのを憐んでヒロイン(林黛玉)が掃き集めて埋める名場面。永井荷風も愛したシーンのようです。

参考：<http://bungonosono.or.jp/shisoro/kato07.htm>

(執筆：加藤漱平)

正月やボール蹴る音よく響く

天牛

孤舟選者・・・晴れ渡って乾燥きった空気は、音を伝えやすくなっている。

※※※※※※※※※※※※※※※※

《参考：季語「かもめ」》

「朝風の瀬戸に舞いくるかもめかな」・・・今回は得点対象になりませんが、この中で「かもめ」の季語に就いて、句会にて選者から留意したい、とのご注意がありました。同時にONE POINTとして康敏さんからのコメントを頂いておりますので、そのままご参考に供します。

※康敏さん・・・朝風は夏、かもめは冬の季語。季重なりです。従来、「冬かもめ」は冬の季語、「かもめ」は無季とされていましたが、冬鳥なので最近の歳時記では「かもめ」だけで冬の季語とされています。尚、海水浴で見られるは、留鳥の海猫で夏の季語(一部歳時記では、春の季語)です。



【次回青葉会予定】

二月青葉会 二月二十七日(木) 十三時より 世田谷区施設しやれなあど 6階スワン

当季雑誌 ご出席の方は5句、ご投句の方は2句を目処に

ご出句締切 二月二十二日(土) 中 ※締切りを半日前倒しにしました。

ご留意ください。次々回は・・・

三月青葉会 三月二十七西(木) 十三時より 世田谷区施設しやれなあど 6階ビーナス

ご出句締切は三月二十二日(土) と致します。



【青葉会報】

一、 一月初旬会は、出席者数は普段ご出席ながら今回体調を崩した方がお三方おられて、全八名での句会となりましたが、今年から幾分調整が出来るようになったとの珍しい昇さんのご出席。まずは金箔入りのお酒で一口「おめでとう」の後肅々と句会開始。披講も充分な時間を取り、丁寧で明るく賑やかな

句会となりました。結果は とみ子さんの十二点を最高点として、くにおさん、けい子さんの九点、忠彦さん、孤舟選者、けい子さんの八点と続きました。

二、 今月より、青葉会にご縁の深い方々の近詠の欄が復活致しました。お楽しみください。

三、 先月の忘年会では、今後の運営を考えても、お若い方々を呼び込みたいとの総意から、まずは、特にお若い方々のお仲間への呼びかけをと、一昨年ご入会の正己さんに期待が集まりました。併せ、会員の皆さまに改めて意識していただくようお願い致しました。因みに六十代で充分な若手です！

四、関係者近詠

孤舟選者近詠

賀状より目覚めし蛇の這ひ出で来
黒猫の耳朵透き通る寒の朝
寒暁や生みたて卵こつと割る
文豪の好みし湯宿雪月夜
寒柝の遠ざかりゆき闇深む

関係者近詠

新米へわづかな釣りを祝儀とす	眞希子	幾たびも前の頁を繰る夜長	青史（陽亮）
曼珠沙華不在地主の顔知らで	全	星流れ柱に残る丈比べ	全
夕刊の配達廃止夜長し	全	高い高いに興ずる親嬰（おやこ）	全
秋夕焼	全	納骨に不意の鳴咽や秋桜	全
曲り角違へど夫婦秋の風	弘子	秋の雲ジャンバルジャンとジャベールと	全
更待のうどん屋の壁讃岐の図	全	南瓜煮る耳にモルダウ新世界	全
禁苑をえつさもつさときよむし	全	夜なべして妻のぬこいまさらに	全
川を聞く二十二夜碑や曼珠沙華	全		
背文字掠れし秩父事件史賜鋭声（とこゑ）	全		
秋霖の草叢（そうそう）雀の濃き頭	全		
斎もせず散会背高泡立草	全		
ちよんと打つアステリスクやきりぎりす	全		

森の座 横澤放川（日経俳壇選者）選 一月号――

一年中休日の身や初暦	盛雄
去年からの疲れを抱いて寝正月	全
初場所や負けて一礼口固む	全
冬空に吼える草原力士かな	全
湯豆腐や木の家に棲み胡坐かく	全

――きんぎょびり――

令和七年二月七日

（了）